

災害時の情報で 気をつけること

コロナ禍でも
すぐできる!

災害時のSNSリテラシー SNSの情報を上手に見きわめよう

コロナ禍でもすぐできる
防災アクション
ガイド

❗ 特に災害時には、SNS上でさまざまな情報が錯綜し、デマが流れることもあります。
SNSの情報を上手に見極めるコツを知っておくことで、災害時でも適切な判断・行動をすることができます。

投稿内容が信頼できるか確認

最新の情報か確認しよう

気象情報は頻繁に更新されるため自分で最新の情報を入手することが大切です。投稿日時に加えて、画像内の日時も確認しましょう。



情報ソースを確認しよう

ウェブの記事は2次転用のものもあります。特に過激な内容には注意し、**公的機関**や**NHKなどのメディア**の情報を確認しましょう。



発信者を確認しよう

信頼できるアカウントか確認しましょう。

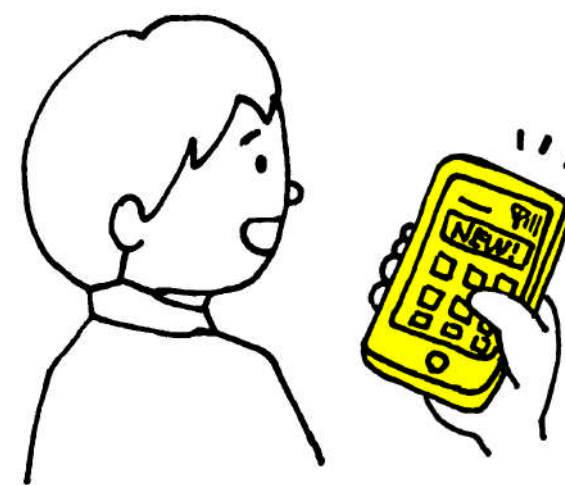
- ☒ 国・自治体などの公的機関や
主要なテレビ・新聞などのメディアか
- ☒ プロフィールが実名か
- ☒ 実名ならどんな人か検索
- ☒ 過去に不審な投稿をしていないか
- ☒ 他の信頼できるアカウントでも同じようなことが
言われているか



災害時は特にデマに注意

RTは慎重に

過去の災害時には、ライオンが逃げたとか、商品が無くなるなどのデマが流れました。誤った情報を拡散しないよう情報ソースの確認を。



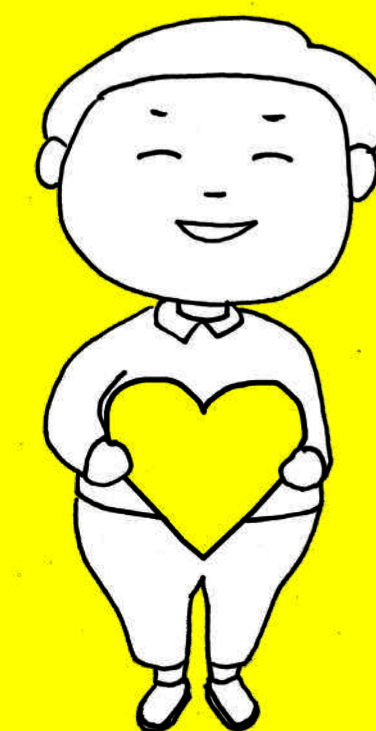
公的機関の情報を確認しよう

投稿内容に誤りがあったり、古い情報だったりする場合があります。自治体や国など公的機関のウェブサイト・SNSを確認する習慣をつけましょう。



被災地に配慮した発信・行動を

被災地や被災者を傷つける投稿はしてはいけません。
また、善意であっても被災地の状況を知らずに物資の送付したり、現地に押しかけたりすると、かえって迷惑をかけます。最新の情報をSNSだけでなく公的機関などで確認し、そのときにできる支援をしましょう。



災害時の情報で 気をつけること

コロナ禍でも
すぐできる!

災害時のSNSリテラシー 疑似科学・陰謀論に注意

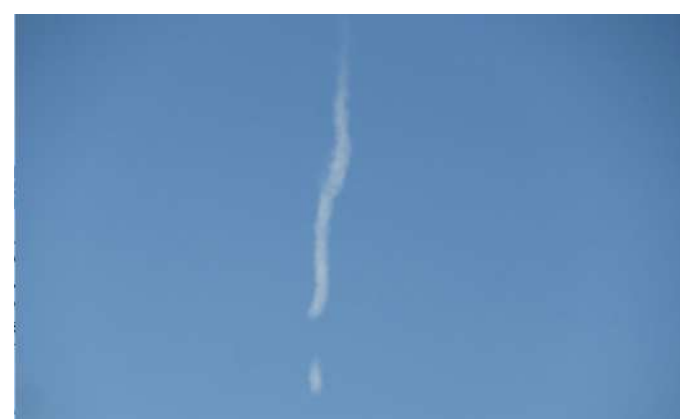
コロナ禍でもすぐできる
防災アクション
ガイド

科学的に見せかける「疑似科学」や、偏見などにもとづく「陰謀論」を唱え、不安をあおる人がいます。
正確な情報を入手して正しく知り、誤った情報に振り回されたり、誤った情報を広めてしまわないようにしましょう。

疑似科学

雲は地震の前兆にはならない

大きな地震が起こると、「地震雲」が話題になります。しかし、巷で地震雲と呼ばれる雲は全て気象学で説明できるため、地下からの影響は見分けられません。地震が不安ならば備えを進めて、雲は愛でましょう。



普通の飛行機雲

疑似科学

地震予知アカウントは信用してはいけない

現在の科学では、日時や場所を特定して予測する「地震予知」は不可能です。科学的な検証もされていないため地震予知はすべてデマです。日本ではM4程度以下の地震は毎日起きており日頃から地震に備えておきましょう。



陰謀論

気象操作などの陰謀論に注意

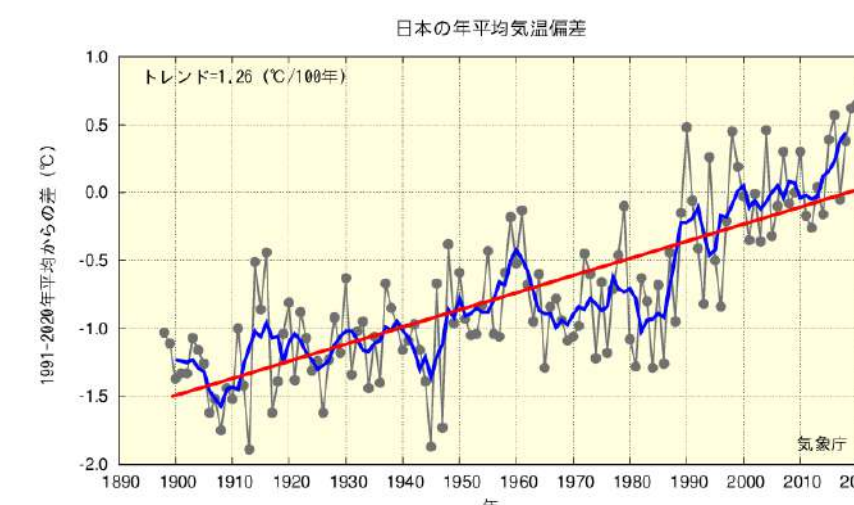
災害を「人工台風・人工地震などで人為的に引き起こされた」とか、ただの飛行機雲を「有害物質を散布している」などと主張する人がいます。しかし、これらは非科学的で不安や対立をあおるだけの陰謀論なので、見かけても相手にしないよう注意。



疑似科学

地球温暖化懐疑論に注意

地球温暖化は科学的知見から間違いなく起こっていることが示されていますが、非科学的な懐疑論を主張する人もいます。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)など最新の科学的知見を信用しましょう。



IPCC



検索するときに気をつけること

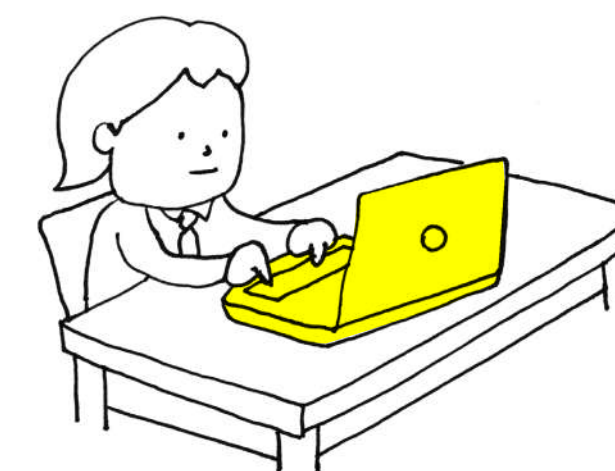
ポイント

- ☐ 公的機関の情報かどうか
- ☐ 科学的根拠となるデータ等があるか
- ☐ 論文を引用しているか

「(検索ワード) 疑似科学 or 陰謀論」で検索

「地震雲」などの特定のワードだけで検索すると、科学的に間違っている肯定的な記事が出てくる場合があります。

検索ワードを工夫して様々な観点で調べ、科学的に正しい情報を確認するようにしましょう。



災害時の情報で 気をつけること

コロナ禍でも
すぐできる!

災害時のSNSリテラシー

気象予測の不確実性を理解しよう

コロナ禍でもすぐできる
防災アクション
ガイド

近年では、様々な気象予測の情報をインターネット上で閲覧できるようになってきています。
一方、気象予測には大きな誤差が含まれることがあるため、うのみにせず参考情報として上手に使いましょう。

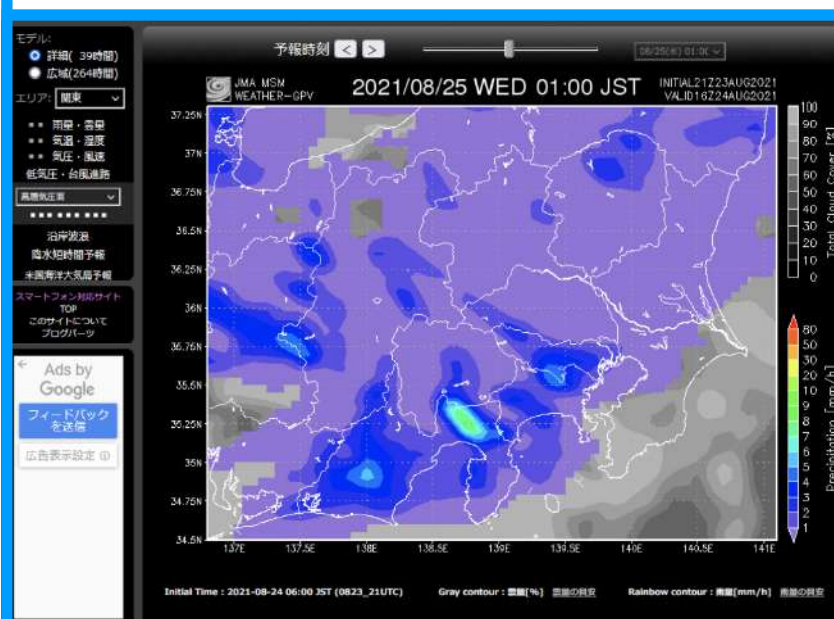
予測と予報は違う

気象予測には大きな誤差が含まれることがあり、参考情報として使ってください。この予測の誤差を踏まえて気象予報士が作るのが天気予報です。混同しないようにうまくつかい分けてみましょう。

予測の得意と不得意

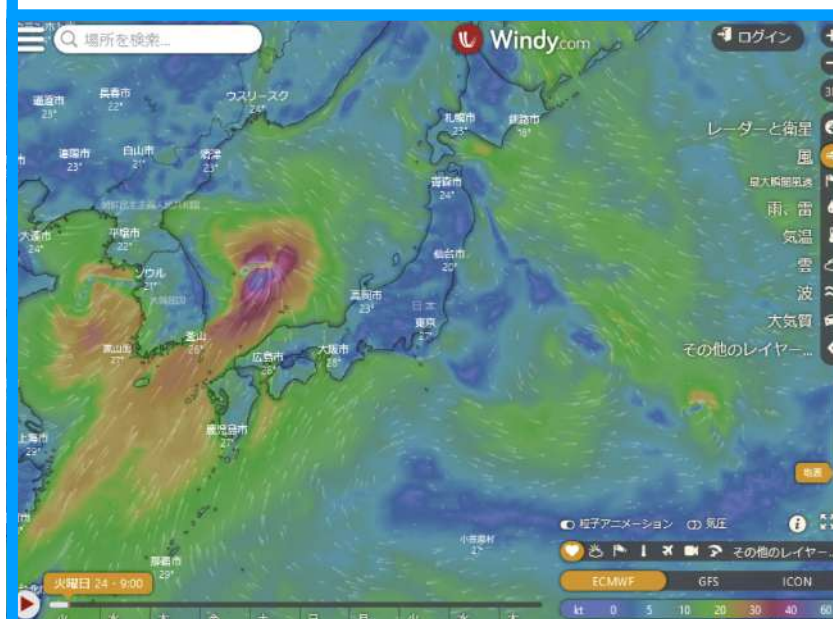
狭い範囲を予測する手法は、予測できる時間は短いですが、地形などを反映した詳しい予測が得意です。一方、広い範囲を予測する手法は、長時間の予測は得意ですが、地域ごとの積乱雲の発生などの細かい現象の予測は不得意です。

GPV気象予報



気象庁の詳細な予測(メソモデル)や広域の予測(全球モデル)、米国海洋大気局の予測(GFS)を参照できます。

Windy



ヨーロッパ中期予報センター(ECMWF)、米国海洋大気局(GFS)、ドイツ気象局(ICON)の予測を参照できます。

特に予測が難しい現象

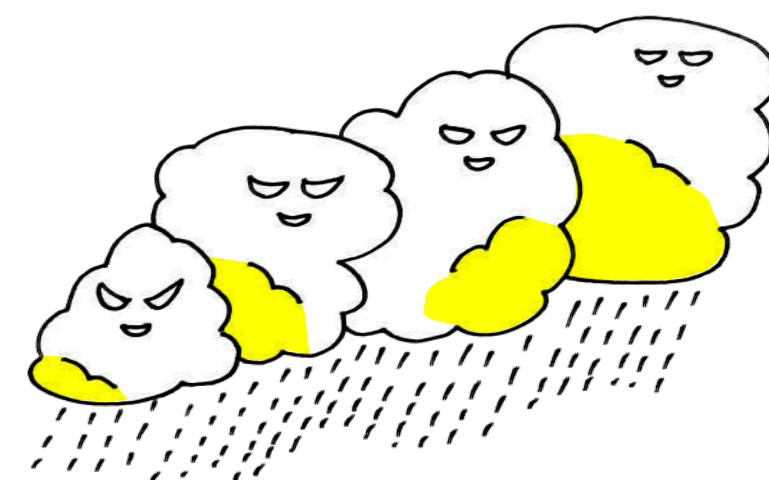
竜巻などの突風

現象の起きる範囲が狭いため、発生を直接予測することは現状では困難です。ただし、竜巻が発生しそうな大気の状態はわかります。



積乱雲・線状降水帯

発生しやすさは予測できるものの、小さい現象なので直接予測はできません。未解明な部分も多いです。



台風

進路や強さの正確な予測にはまだ課題があります。現状では進路を確率的に計算し、予報円(台風中心がある確率70%の円)で情報発表しています。



南岸低気圧による雪

関東など太平洋側で南岸低気圧によって降る雪は、雪か雨かや、大雪になるかについても現状では予測が難しいです。



災害時の情報で 気をつけること

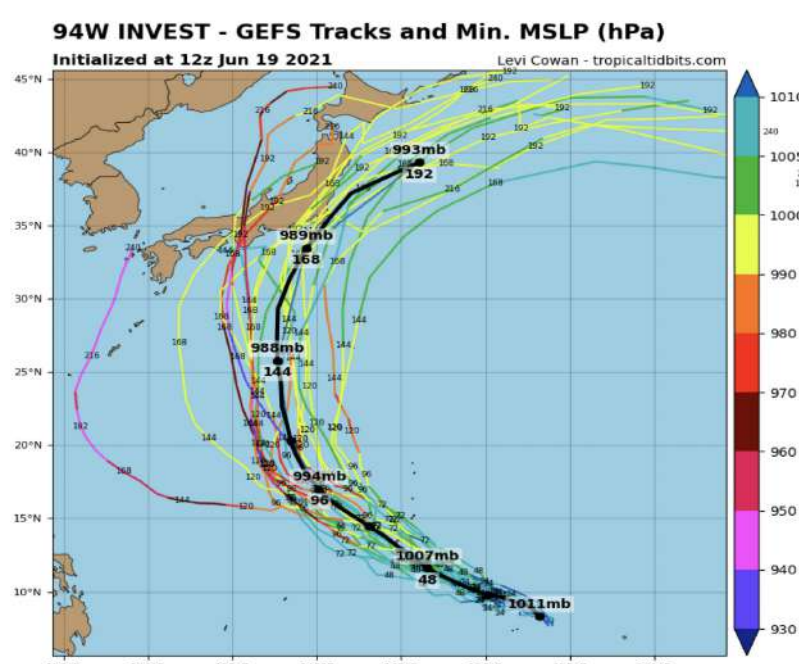
コロナ禍でも
すぐできる!

災害時のSNSリテラシー 気象情報を適切に使いこなそう

コロナ禍でもすぐできる
防災アクション
ガイド

不安をあおる気象予測の投稿は気を付ける

たとえば気象予報士の肩書きを名乗るアカウントでも注意。台風など幅があったり、信頼性が低かったりする気象予測の結果を、予報であるかのように断定的に表現し、防災行動を呼びかけている場合があります。そのような発信を鵜呑みにせず、気象庁発表の防災気象情報を利用するようにしてください。



Tropical Tidbitsより

細かければいいというわけではない

大気の状態は複雑です。先の時間になればなるほど、予測の誤差は大きくなります。数日以上先の天気は1時間ごとで詳細に出いていても、ほとんど信頼できるものではないので注意してみましょう。

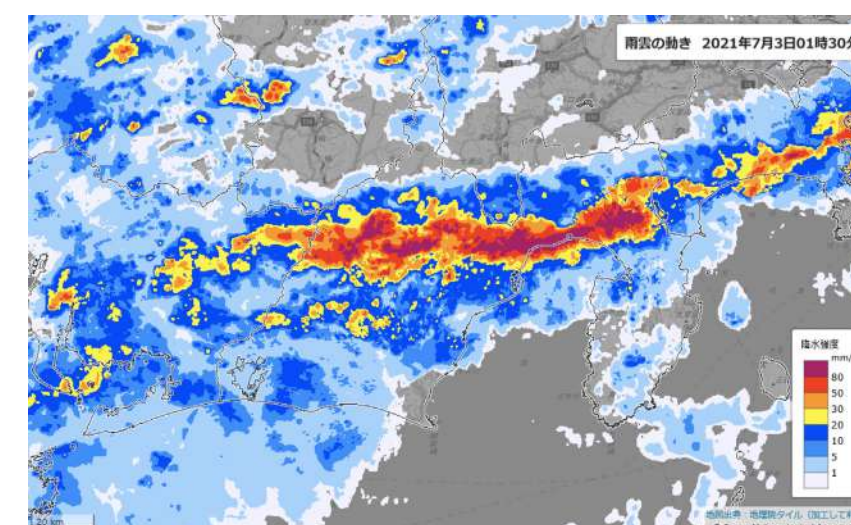
東京	曇時々晴	曇時々晴	晴時々曇	曇時々晴	曇時々晴	曇時々晴	曇時々晴
降水確率(%)	-/10/20/30	30/10/20/20	30	30	30	30	30
信頼度	-	-	C	B	C	C	C
最低/最高(℃)	- / 31	24 / 33	25 / 34	25 / 33	25 / 33	24 / 33	23 / 31

予報の信頼度

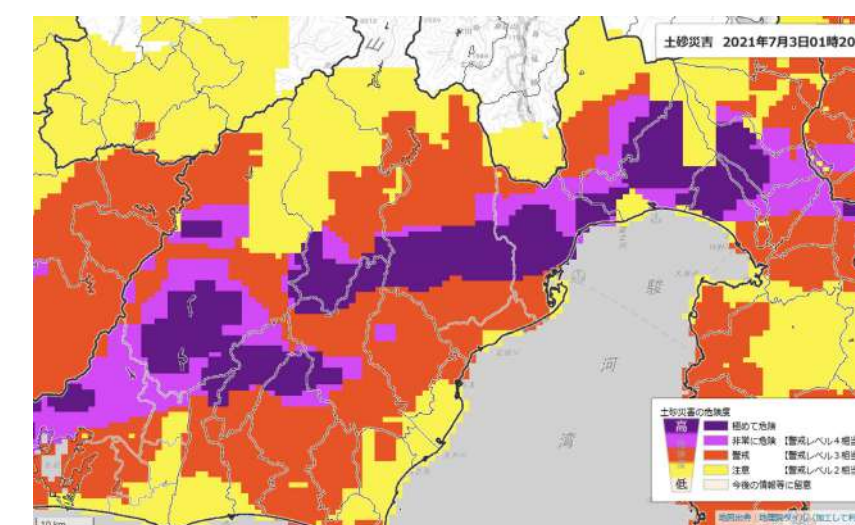
気象庁の「週間天気予報」では、予報の確からしさを信頼度でA・B・Cと表示しています。特にCでは予報が変わる可能性が高いので、最新の予報を確認する必要があります。

危険を知らせる情報をチェック

大雨などは正確な予測が難しく、刻々と状況は変化します。レーダーの雨量情報や水害の危険度など、リアルタイムの情報を上手に使い、災害から身を守りましょう。



気象庁「雨雲の動き」

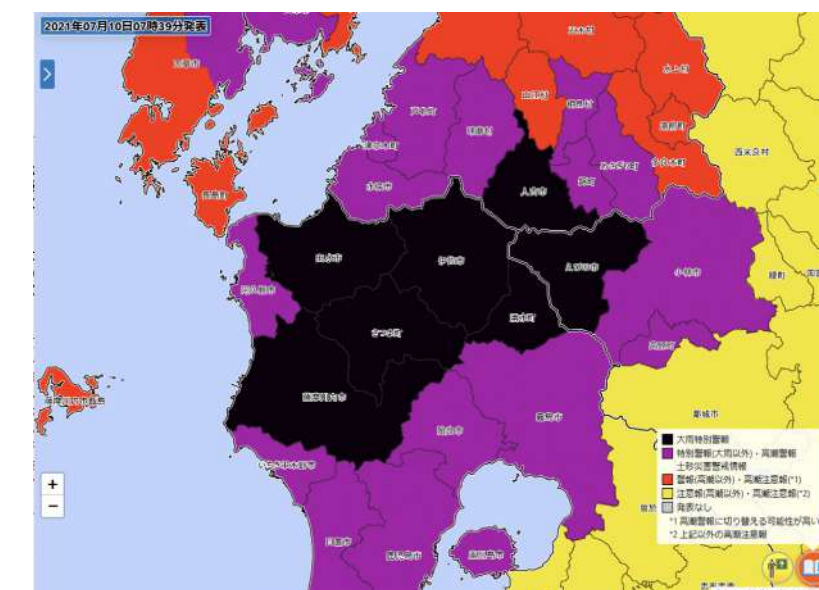


気象庁「危険度分布」

気象庁や市区町村の情報で防災行動しよう

市区町村の出す避難情報に従って避難の判断をしてください。

気象庁の発表する防災気象情報を上手く使えば、早め早めに避難の判断や行動ができます。



「緊急安全確保」の避難情報や大雨特別警報が発表されてからでは避難が間に合わない場合があります。自分や家族の状況を踏まえて、早めに防災行動をとりましょう。